

北湖沖合湖底の酸素量とスジエビ等の生息状況

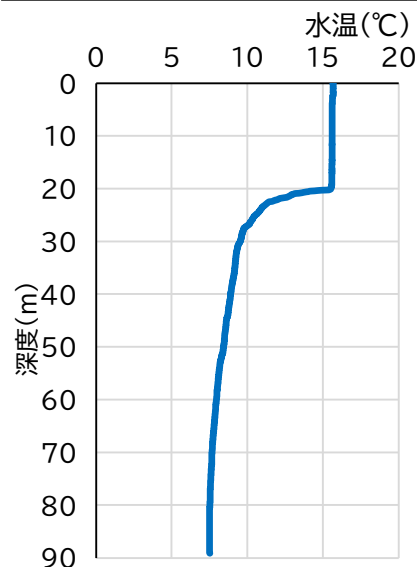
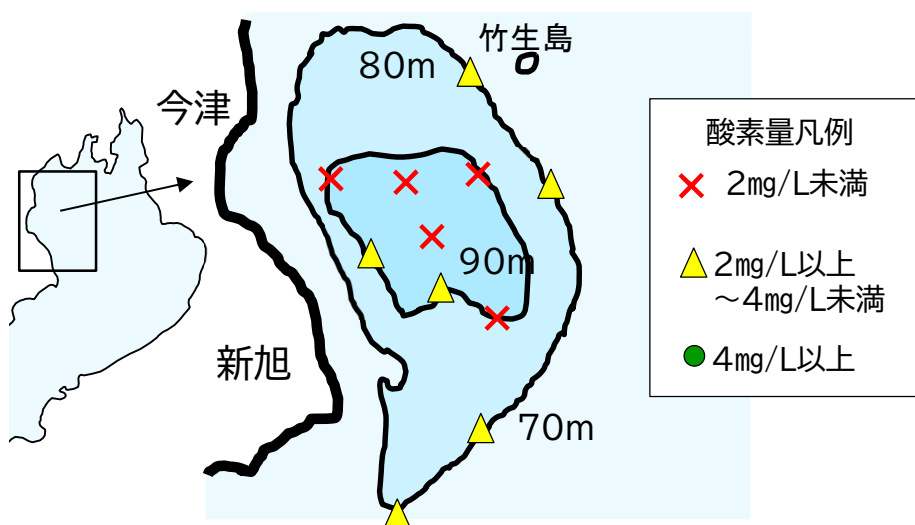
2025年12月9日
滋賀県水産試験場

琵琶湖沖合の底層では、秋から冬にかけて酸素量が低下し、2mg/Lを下回るとスジエビなど魚介類の生存や分布に影響を与えることがあります。

そこで、水産試験場や琵琶湖環境科学研究センターが実施した酸素量やスジエビ等の生息状況に関する調査結果をお伝えしますので、操業の参考にしてください。

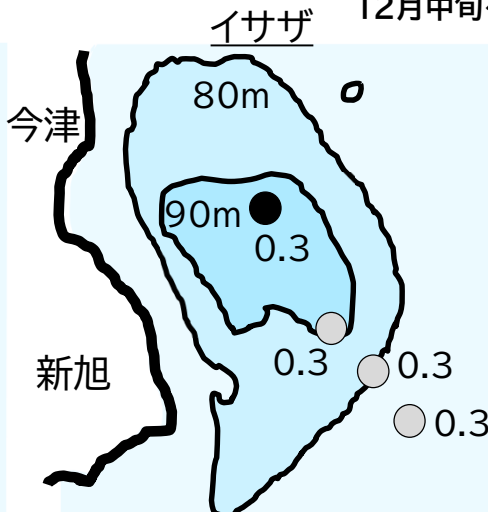
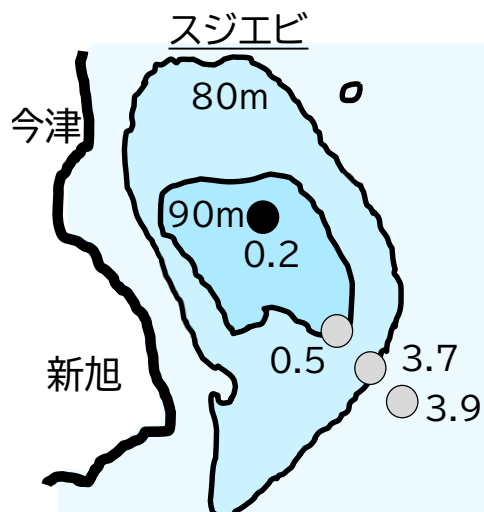
○湖底等の酸素量(2025年11月25日～26日)

今津沖(水深90m)11月21日



- ・湖底直上1mの酸素量は水深90m水域で2mg/Lを下回りました。
- ・水温躍層は20m付近にあり、湖底水温は7.5℃でした。

○スジエビ等の生息状況(2025年11月13日) ※前回から更新なし、次回調査は12月中旬を予定



・スジエビ
死亡個体は水深90mの北側の水域のみで確認されました。

・イサザ
死亡個体は水深90mの北側の水域のみで確認されました。

